

保残木マーク法 森林調査票

NPO法人 柚の杜学舎・島崎山造り塾

NO	ナンバリング	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	形状比	保残木(◎)	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						

現況の把握	樹種	スギ・ヒノキ・カラマツ・()	
	プロット面積		m ² (ha)
	プロット本数		本/プロット
	①ヘクタール当り本数		本/ha
	平均胸高直径		cm
	②上層木樹高(平均)		m
	上層樹高に対する形状比70の直径値		cm
	③林齢		年
	相対幹距比 (Sr)		%
	④混み具合判定	超過密・過密・適正・疎	
保残木マーク法	⑤将来の樹高(80年生)		m
	Srの目標値		
	⑥将来の保残本数/ha		本/ha
	平均樹幹距離		m
	プロット内 保残木数		本/プロット

【相対幹距比判定基準】
 <スギ・ヒノキ>
 ●Sr14未満 いちじるしく過密な状態
 ●Sr14~17 過密な状態
 ●適正值の目安
 スギ Sr18~20 ヒノキ Sr17~19
 アカマツ・カラマツ Sr19~21

【形状比判定基準】
 ●形状比90以上一風雪害の影響を受けやすい。
 ●形状比70以下一強度に間伐しても風雪害に耐える。

傾斜地 距離換算表	
(傾斜角)	(倍率)
10度	1.02
20度	1.06
25度	1.10

ha当り本数と樹幹距離	
3000本/ha→	1.8m
2500本/ha→	2.0m
1000本/ha→	3.2m
800本/ha→	3.5m
600本/ha→	4.1m
500本/ha→	4.5m
400本/ha→	5.0m
300本/ha→	5.8m
200本/ha→	7.1m
100本/ha→	10.0m

調査日	年 月 日
調査地	
調査者	